

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境					0.40	3.0
1	音環境			3.0	0.15	3.0
	1.1 室内騒音レベル	—		3.0	0.40	
	1.2 遮音			3.0	0.40	
	1	開口部遮音性能	—	3.0	1.00	
	2	界壁遮音性能	—	3.0	-	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	1.0	-	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	—	3.0	-	
	1.3 吸音	—		3.0	0.20	
2	温熱環境			3.0	0.35	3.0
	2.1 室温制御			3.0	0.50	
	1	室温	—	3.0	0.38	
	2	外皮性能	—	3.0	0.25	
	3	ゾーン別制御性	—	3.0	0.38	
	2.2 湿度制御	—		3.0	0.20	
	2.3 空調方式	—		3.0	0.30	
3	光・視環境			3.0	0.25	3.0
	3.1 昼光利用			3.0	0.30	
	1	昼光率	—	3.0	0.60	
	2	方位別開口	—	-	-	
	3	昼光利用設備	—	3.0	0.40	
	3.2 グレア対策			-	-	
	1	昼光制御	—	3.0	-	
	3.3 照度	—		3.0	0.20	
	3.4 照明制御	—		3.0	0.50	
4	空気質環境			3.0	0.25	3.0
	4.1 発生源対策			3.0	0.50	
	1	化学汚染物質	—	3.0	1.00	
	4.2 換気			3.0	0.30	
	1	換気量	—	3.0	0.33	
	2	自然換気性能	—	3.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.33	
	4.3 運用管理			3.0	0.20	
	1	CO <sub>2</sub> の監視	—	3.0	0.50	
	2	喫煙の制御	—	3.0	0.50	
Q2 サービス性能				-	0.30	3.0
1	機能性			3.0	0.40	3.0
	1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	
	1	広さ・収納性	—	3.0	-	
	2	高度情報通信設備対応	—	3.0	-	
	3	バリアフリー計画	—	3.0	1.00	
	1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	
	1	広さ感・景観	—	3.0	-	
	2	リフレッシュスペース	—	3.0	-	
	3	内装計画	—	3.0	1.00	
	1.3 維持管理			3.0	0.30	
	1	維持管理に配慮した設計	—	3.0	0.50	
	2	維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50	
2	耐用性・信頼性			3.0	0.30	3.0
	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	
	2	免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30	
	1	躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20	
	2	外壁仕上り材の補修必要間隔	—	3.0	0.20	
	3	主要内装仕上り材の更新必要間隔	—	3.0	0.10	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	—	3.0	0.20	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20	
	2.4 信頼性			3.0	0.20	
	1	空調・換気設備	—	3.0	0.20	
	2	給排水・衛生設備	—	3.0	0.20	
	3	電気設備	—	3.0	0.20	
	4	機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	
	5	通信・情報設備	—	3.0	0.20	

3	対応性・更新性			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 空間のゆとり			3.0	0.30	-	-	
		1 階高のゆとり	—	3.0	-	3.0	-	
		2 空間の形状・自由さ	—	3.0	1.00	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		—	3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	3 電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-		
	4 通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-		
5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-			
6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	3.0	
1	生物環境の保全と創出		—	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		—	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.6
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.61	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.61、LED照明設備を採用。	3.4	0.50	-	-	3.4
	集合住宅以外の評価			3.4	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水		—	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1 材料使用量の削減		—	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		—	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		—	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		—	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		壁・天井共LGS下地を採用し、壁と仕上材が容易に分別可能となっている。OAフロアも採用している。	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20	-	-	2.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		—	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	2.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=69%	4.2	0.33	-	-	4.2
2	地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1 大気汚染防止		—	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		—	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	污水处理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.33	-	-	
	2	振動	—	3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	3.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-		

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	－	－	－	○	－	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	－	－	－	－	－	－	○	－	○	○	○	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		－	○	○	○	○	－	－	○	－	－	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	1.0		－	○	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	1.0	○	－	－	－	－	○	－						
2.4.3 電気設備	2.0	2.0	－	－	○	－	○	－							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		－	○	－	○	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		－	－	2.0	1.0	－	1.0	1.0	－	1.0	1.0	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	－	－	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		1.0	－	1.0	－	－	－	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		2.0	－	1.0	1.0	－	2.0	－	2.0	－				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	2.0		－	2.0	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	－	○	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0		－	－	－	－	1.0	－	－	1.0	1.0	1.0			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		－	1.0	－	1.0	－	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	－	－		1.0	－						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		－	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率(η)－			
U値(W/m2K)		窓システム	4.0	屋根	2.0
住戸部分		窓システムU値	－	外皮UA値	－
屋光率	1.5%	η AC	－	η AH	－
自然換気有効開口面積率	3.3%				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	6.0㎡ /人	病床	8.0㎡ /床	シングル	15.0㎡ ツイン	22.0㎡
--------	---------	----	---------	------	-----------	-------

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	30.0 VA/㎡
---------	-----------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	2.5 m
-----	-------

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%
------------	------	---------	------

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	25 年
--------	------

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	20 年
--------	------

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

3.1.1 階高のゆとり

階高	3.2 m
----	-------

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	20.0%
-------	-------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	4000 N/m2
-----	-----------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	34%	建物緑化指数	5%
--------	-----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	20%	水平投影面積率	6%	地表面対策面積率	8%	舗装面積率	4%
-----	-----	---------	----	----------	----	-------	----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI <sub>m</sub>	0.61	断熱等性能等級	等級4 相当
----------------------	------	---------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	80.0%
--------------	---------	-----------	-------	-----------	-------

通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	80.0%
-----------	-------	-----------	-------

太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
-----	------	------	------	-----	------

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

BEI/BEI <sub>m</sub>	再エネ有	0.61	無	0.61	オフサイト再エネ有	0.30	－
----------------------	------	------	---	------	-----------	------	---

集合住宅の評価

一次エネ削減率	再エネ有	無					－
---------	------	---	--	--	--	--	---

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	－	エコマーク商品	－	自治体指定の特定品目等	－
--------	---	---------	---	-------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	5.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
---------------	--	--------------	--

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1430
---------------	---	--------------	------

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	8
---------------	---	--------------	---

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	44%	隣棟間隔指標R <sub>w</sub>	0.40
-------	-----	----------------------	------

地表面対策面積率	17.0%	屋根面対策面積率	6.0%	外壁面対策面積率	1.0%
----------	-------	----------	------	----------	------

見付面積S <sub>b</sub>	40,000㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub>	200 m	基準高さH <sub>b</sub>	450 m
--------------------	---------	------------------------------	-------	--------------------	-------

緑地	430㎡	水面	㎡	保水性対策面	300㎡	高反射対策面	200㎡	再帰性反射対策面	300㎡
----	------	----	---	--------	------	--------	------	----------	------